

第3部 文化的景觀保存計画

第1章 序

第1節 計画策定の背景と目的

大分県別府市は国内では第1位、世界でも第2位である湧出量を誇り古くから湯治場として栄え、観光都市として長い歴史と特徴的な文化形態を形成してきた。その中でも地獄や温泉施設、宿泊施設が充実しており観光モデル地区として多くの観光客で賑わう「鉄輪温泉地区」、温泉の成分を固形化した湯の花を製造するために建てられる藁葺きの湯の花小屋が独特の景観を形成している「明礬温泉地区」という別府市を代表する二つの地区がある（図1-1）。

豊富な温泉資源と扇状地という地形が見る別府市の「湯けむり景観」は、世界でも希有な存在であり、また他の地域にはない個性をアピールすることができる特有の大規模なものであり、温泉文化に裏打ちされた文化的価値のある景観であると考えられる。近年この「湯けむり景観」を地域における生活や当該地域の風土により形成された「重要文化的景観」として選定し、後世に残すために一体的に保護しようという取り組みがこの二つの地区で始まっている。

「重要文化的景観」の保護制度とは平成17年（2005）に施行された「日本の人々の生活や風土に深く結びついた地域特有の景観の重要性が見直されるとともに、その保護の必要性が認識されるようになってきた動きを受けて景観を重要文化財として制定し保護していく制度」である。この制度を活用することで文化的景観の保存活動を行うための事業（調査事業、保存計画策定事業、整備事業、普及・啓発事業等）に対しての国からの経費の補助を受けることができ、国と自治体と地域が一体となって文化財保護活動を行うことができる。

『平成20年度 湯けむり景観保存管理のための専門調査報告書』（以下、平成20年度調査）において、外来者及び住民の意見や文化的景観を構成していると考えられる要素が抽出されている。また市史をはじめとする文献調査より、対象地区における景観の特徴が主に形成された時期として、鉄輪温泉地区では1910～1972年、明礬温泉地区は1885～1936年の期間が原風景形成期として特定されている。

また、『平成21年度 湯けむり景観保存計画策定に関する研究報告書』（以下、平成21年度調査）においては、前年度までの調査研究と新たに行うワークショップやヒアリング調査を基に、文化的景観構成要素の生活や生業への関連性を整理した。

そこで第3部では、上述の調査結果に加え、各分野で実施された保存計画書第2部の調査報告結果を勘案して、保存すべき重要な文化的景観構成要素を特定し、歴史性を踏まえた地域景観に対する住民意見を抽出し、対象地区を重要文化的景観として保護していくための方向性を検討する。



鉄輪温泉地区



明礬温泉地区

図1-1 対象地区の風景

また、先述の各調査報告結果から、文化的景観構成要素の変遷を把握するとともに、別府市鉄輪温泉地区・明礬温泉地区の重要な文化的景観構成要素を抽出する。

さらに、別府市鉄輪・明礬温泉地区における、住民を対象としたワークショップ（以下、WS）により、住民意見と歴史性を勘案した「全体の方向性（地域の将来像）」に加え、現在、対象地区の「行為規制」に関する計画や条例、法等、「管理運営」の実態を整理することで、重要文化的景観として保護していくための方向性を検討する。

その結果、「行為規制」「管理運営」の現行制度のまとめより、歴史的背景や住民意見を勘案した文化的景観の継承において重要となる「周辺環境を含めた全体の方向性」「行為規制」「保存管理」「整備活用」「運営」の方針に関する計画的課題を導出することを目的としている。